

第16回研究会の議事録

- 日時：平成26年5月24日(土) 13:00～16:00
- 会場：横浜国立大学みなとみらいキャンパス
ランドマークタワー18階 1809室
- 参加者：(メンバ) 6名
(一般参加) 1名
(相談者) なし
- 配布資料：ガイドブック原稿コメント

■内容：

1. 個別相談
個別相談の要求はなかった。
2. 情報システム論文の書き方ガイドブックの原稿レビュー
 - ・第2版 131019版をベースに以下の作業分担で作成した改定原稿のレビューを行った。
 - －第1部 情報システム論文はいかなる成果物であるべきか 原
 - －第2部 情報システム論文はいかに作成すべきか 神沼
 - －第3部 情報システムの研究はいかにあるべきか 田名部
 - ・レビューにあたり、当研究会の目標およびガイドブック発刊の目的を再度確認しておいた方がよいという意見が出されその議論を行った。
議論の主な合意は以下である。
 - 研究会の目標規定文
「論文執筆に一步踏み出せない、先に進めない人たち」あるいは「書きたいのだがIS論文として書けない人たち」に対して、「執筆者が抱える問題」を明らかにし、その「解決方法」を提案する。
 - ガイドブック作成の目標規定文
解決方法の提案手段として作成する。
 - ・以上の合意のもとガイドブックの執筆にあたっての留意点を議論した。おもな意見は以下の通り。
 - ・論文という文章の特性を理解できていない
 - ・IS論文とは何であるか、どうあるべきか
 - ・なぜIS論文とならないのか
 - ・IS論文の書き方を指導できていない
 - ・IS論文が正当に査読できていない
 - ・

こういった問題に対し、理解を深める内容を記載する。

 - ・内容は、事例報告論文の書き方を主題とし、一般の論文にも適用できることを考慮する。
 - ・読者対象は、社会人や社会人大学院生で論文執筆を目指す人を主な対象とし、事例報告論文の執筆指導者や査読者も対象とする。
 - ・内容は、情報システム論文はいかなる成果物であるべきかを述べる部分、情報システム論文はいかに作成すべきかを述べる部分、情報システムの研究はいかにあるべきかを述べる部分から構成する。
 - ・読者の理解を援助するためにできるだけ具体例を示す。

・参考文献は章ごとに紹介する。

・作業計画

再改定原稿の締め切り 6月7日(土)

改定原稿は情報共有フォルダーにアップする

メンバは事前にレビューしておくこと

6月14日に開催予定の研究会で再度レビュー確認を行う。

その後最終原稿を7月26日の研究会(予定)で再度確認する。

最終構成のうえ8月に出版作業に入る。

注: 今回の議論は共有資料置き場にアップされているPPTの記録で確認されたい。

3 ワークショップに関して

今年度もワークショップを開催する。

9月27日(土)を予定しているが、会場の確保の目処が立っていない。

候補: 青学(原確認)、関学大(田名部先生確認)

なお、地方開催も検討に上がり可能性を検討(藤田さん確認)

ワークショップの内容は、これまでの「よい情報システム論文を書こう」から「リフレクション: なぜ論文が書けないのか」にするという案が出された。

ワークショップの詳細な企画は次回研究会で議論する予定。

4 今年度の活動予定

第17回 6/14 第18回 7/26

ワークショップ 9/27 または 9/28

以降未定

5 次回予定

第17回 研究会

■日時: 6月14日(土) 13:00~16:00

■会場: 横浜国立大学みなとみらいキャンパス

ランドマークタワー18階 1809室

住所: 横浜市西区みなとみらい2-2-1

アクセス案内: <http://www.yokohama-landmark.jp/web/access/>

- 議題:
- 1 相談会
 - 2 ガイドブックのレビュー
 - 3 ワークショップの企画
 - 4 その他

以上